

連載 少年野球随想 第一回  
「海外派遣」

荒井 義一

「I B Aの海外派遣に行きませんか・・・」  
と誘うと必ず

「お金がかかるんでしよう・・・」とくる。  
確かに東南アジア諸国で15万円ぐらい、アメリカやヨーロッパとなると20万から25万円かかる。小学生の子供を持つ若い家庭ではその負担が大変なのはよくわかる。

といって大学生の無銭旅行のように飛行機はキャンセル待ち、ホテルに泊らず寝袋、というのなら安上りですむが、小学生の団体旅行ではそうはいかない。一流の航空会社、ホテルでなくては万一の場合、大変なことになる。

そこで、アメリカ人から聞いた話を書く。

「パパ、夏休みにジャパンへ行つていい」

「少年野球でか」

「イエス」

「費用はいくらぐらい・・・」

「20万円・・・」

「OK！半分はパパが出してやるう。あとの10万円はアルバイトして稼げ・・・」

「何をすればいいの」

「レストランの皿洗いだ。学校から帰ってきたら復習をして夕方、2時間ばかりやればいい時給800円として一ヶ月やれば5万円になるぞうだー！」

\*

私の息子も22年前にIBAの第一回南米遠征へ参加した。監督は昨秋、逝った道仏訓氏（元パ・リーグ審判部長）。28日間の日程でニューヨーク経由でブラジルからパラグアイアルゼンチン、チリ、ペルー、メキシコの6カ国を転戦して11勝7敗3分け、費用の30万円（12歳なので航空運賃は大人）の捻出はアメリカ人の話を真似た。

幸い女房の実家が阿佐ヶ谷で蕎麦屋を経営していた。

「冬休みにおじいちゃんの所へ行って井洗いをしる。正月になったら、JAPANのユニフォームを来てお母さんと親戚回りだ。おじさんやおばさんがお年玉を普段の倍くれる・・・」

「えっ！正月なのにユニフォームを来て電車に乗るのは恥ずかしい・・・」

「そんなことを言ってる場合じゃない。必ず効果があるから・・・」

息子は部厚いお年玉をいくつも抱えてホクホク顔で帰ってきた。そしてこう言った。

「JAPANのユニフォームにみんなピックリしていたヨ」。

そりゃそうだ。JAPANを胸につけられるのはオリンピックの選手だけだ。

\*

帰国の日、成田空港へ迎えに行った。ゲッソリ瘠せて帰って来た。

「どつだった・・・」と聞いたら

「くたびれたあ・・・」

「それだけか・・・」

しばらく考えてしみじみと、

「世界は広いねえ・・・」

それが解ればあとは何も言つことはない。

可愛い子には旅をさせるべきである。

(平成18年1月30日脱稿)